

令和5年度（2023年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

商 法

B 日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は3枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和5年度（2023年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	商	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（10点）

1株1議決権の原則及び当該原則に関する会社法上の例外につき、述べよ。

問題2（15点）

次の事例を読み、[問い]に答えなさい。なお、[問い]（1）と（2）は、独立した問題である。

X株式会社は、取締役会設置会社であるところ、定款上、その全株式につき、譲渡の際、取締役会の承認を要する旨の制限がなされている会社である。

[問い]

（1）X株式会社の株主総会は、経営陣の意欲高揚を目的として、新株予約権を取締役に無償で発行する旨の特別決議を行った。その際、株主総会は、当該新株予約権の行使に関する条件につき取締役会に委任し、委任を受けた取締役会は、X株式会社の株式が上場されること及び上場後6か月経過して行使することができることを条件とした。

その後、X株式会社は諸般の事情により株式を上場することができなくなった。そこで取締役会は上記条件を変更し、上場しなくても新株予約権を行使できるものとした上で、取締役Yは、当該変更に基づき、新株予約権を行使し、その発行を受けた。

かかる株式発行は有効か、判例を踏まえて述べよ。

（2）X株式会社の株主であるZは、資金繰りの一環として、X株式会社の株式を売却することに思い至り、Aとの間で、当該株式の売買契約を締結した。しかし当該売買契約に際し、取締役会の承認を得ていなかった。

その後、ほどなくしてZの資金繰りは改善し、X株式会社の株式を手放すことを躊躇するようになった。

このとき、Zは、取締役会の承認を得ていないことを理由に、Aとの間の売買契約の無効を主張しようと考えているが、かかる主張は認められるか、判例を踏まえて述べよ。

以上